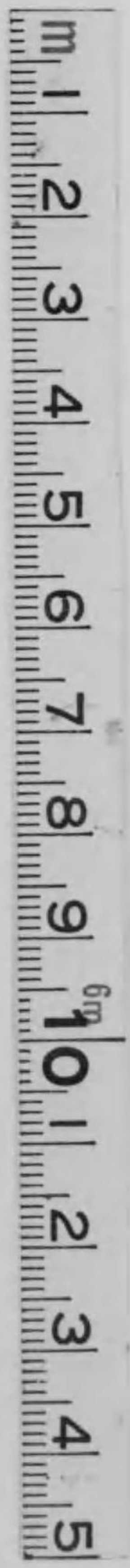


古代
廣益政帳
下

67
374



始



古代
三言一及三三

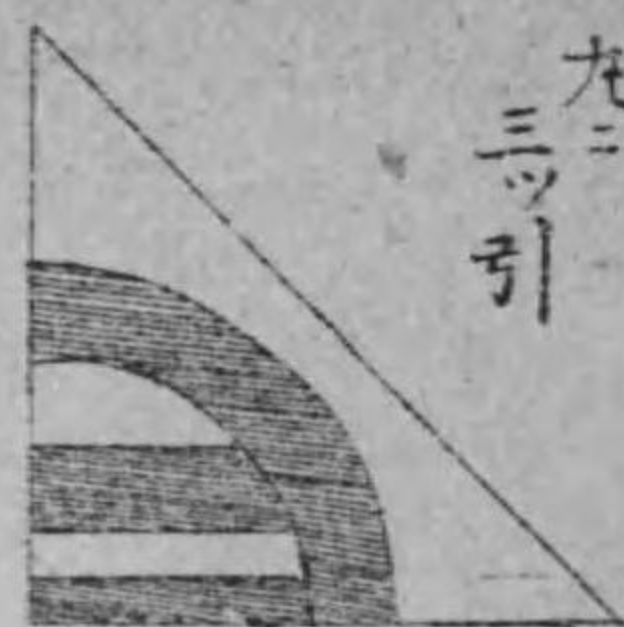


三ツ
もみり

三ツ折



丸
たて
花
ひ



丸
三ツ引



源氏香火圖

石明

磨須

神

紅葉

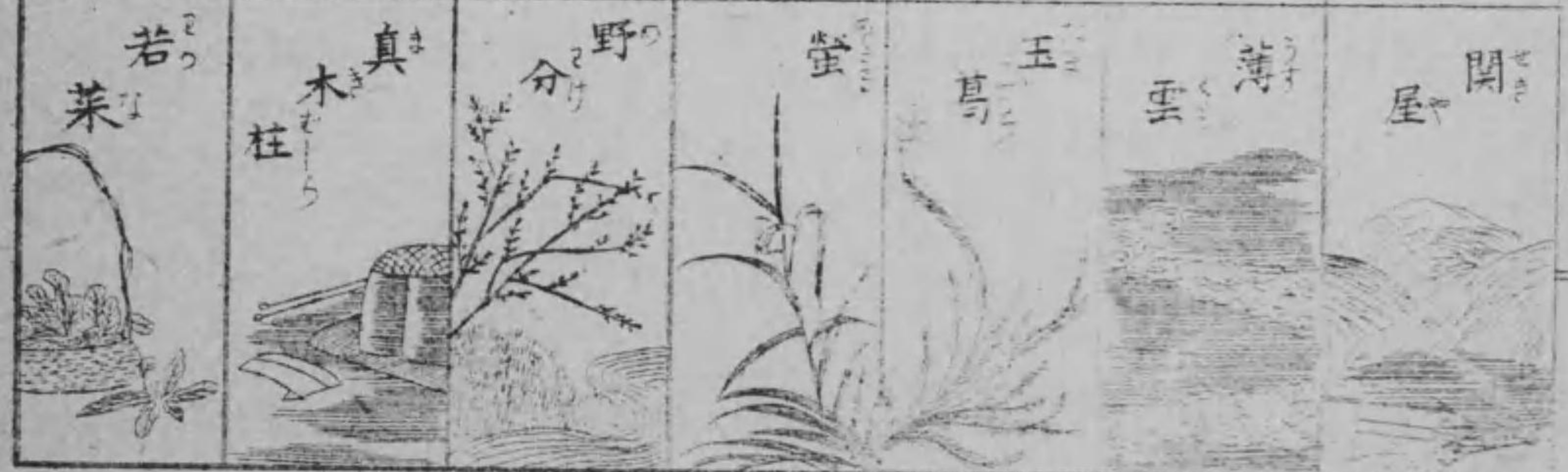
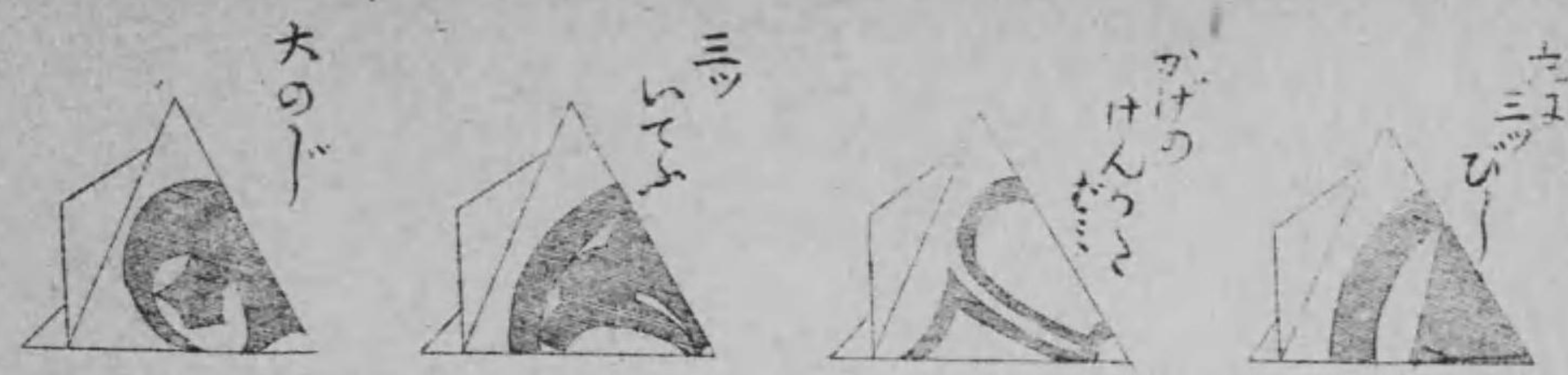
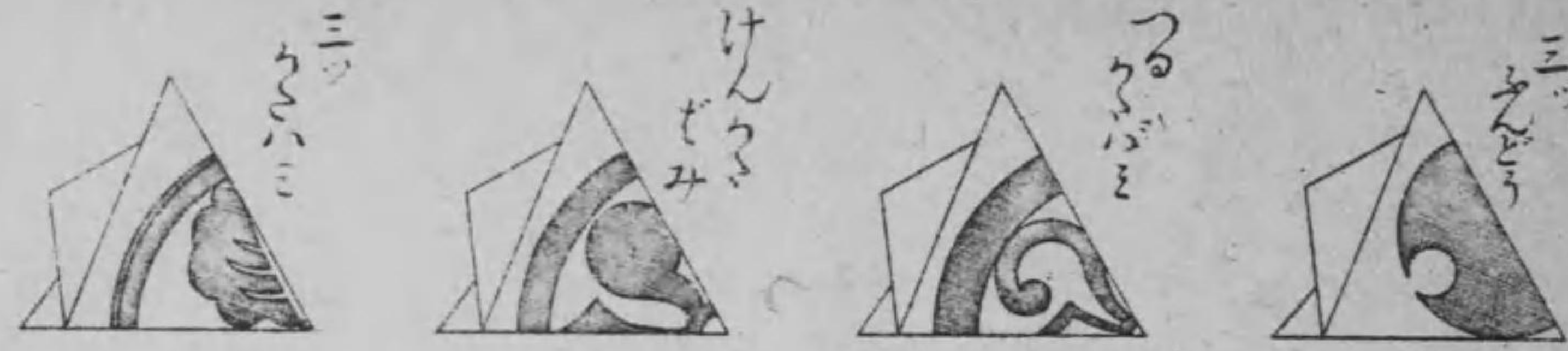
顔夕

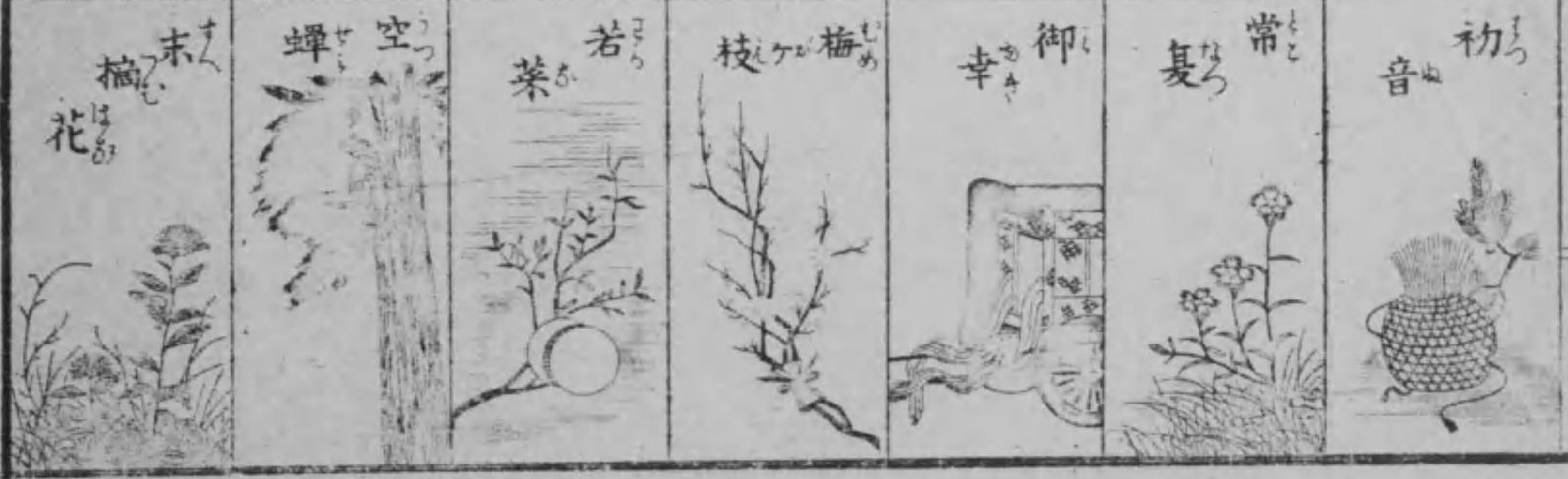
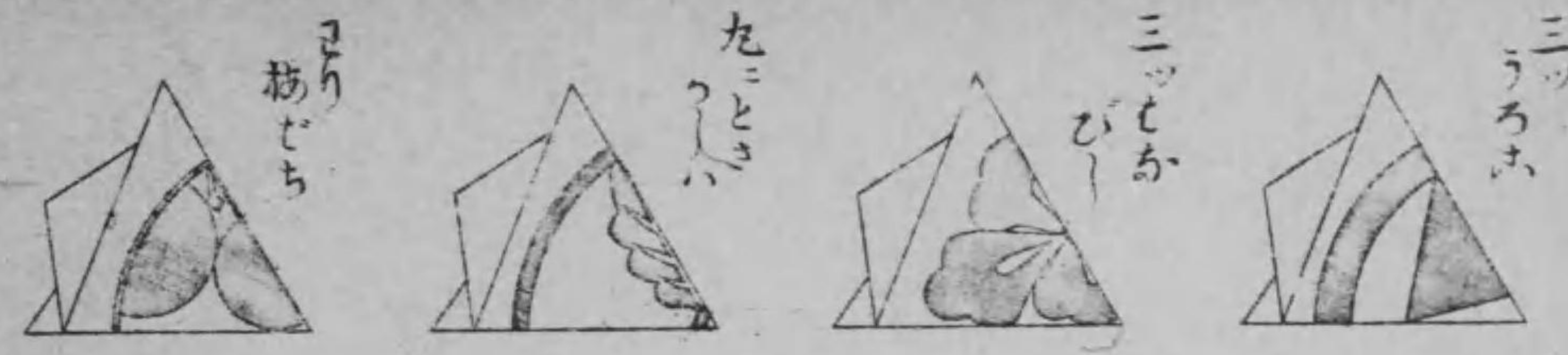
壺桐



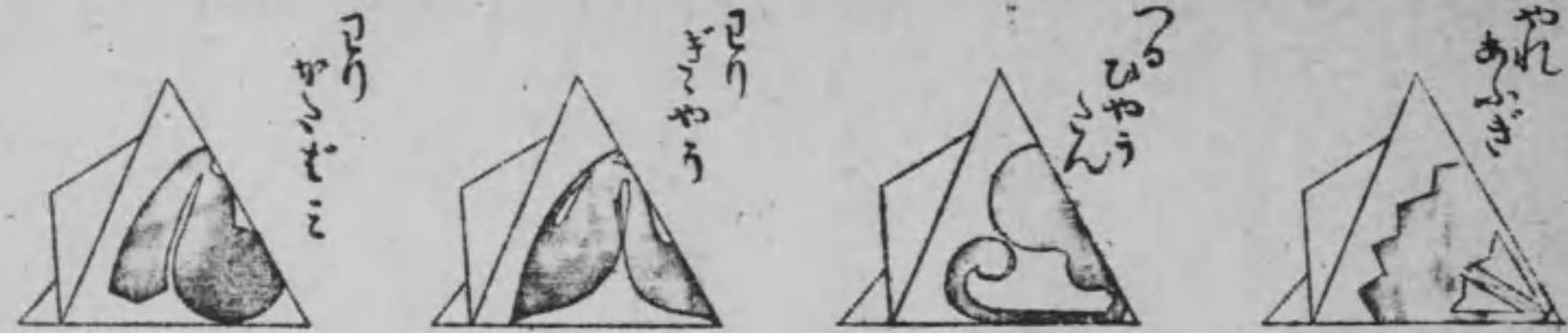
大正
7.10.3
内交

七十九





古代
黄益文長

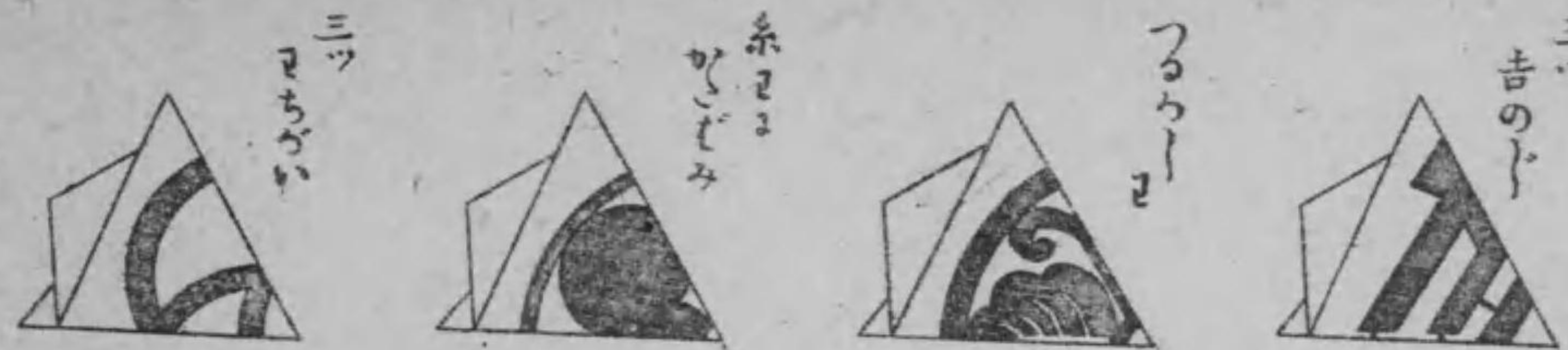


習手 (しゅうて) 屋東 (やとう) 角總 (かくそう) 梅紅 (うめこう) 幻鈴 (まぼろし) 虫鈴 (むしり) 鈴蜻 (りんせう)



八十二

雛形
黄益文長

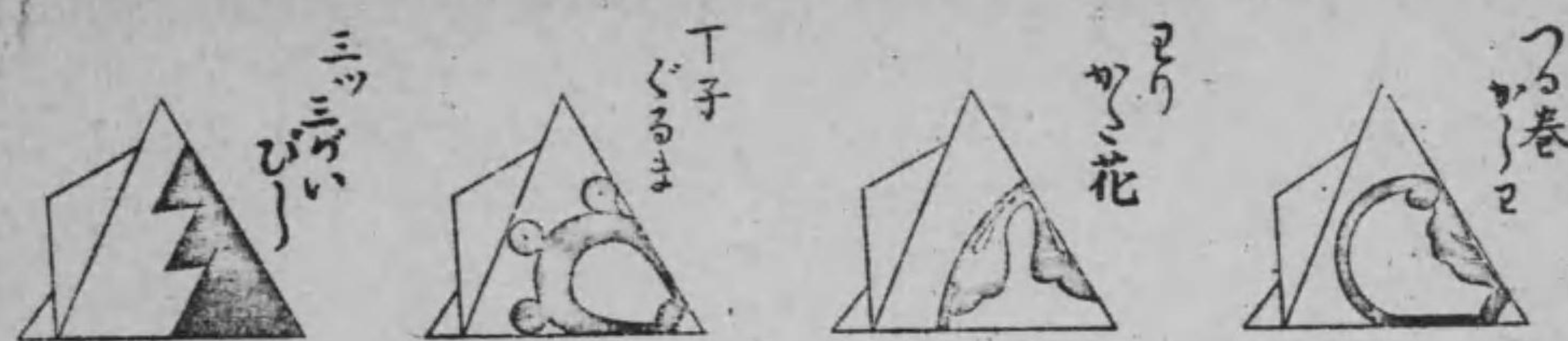


木宿 (きしゆく) 木椎 (きすい) 川竹 (かわたけ) 法御 (ほつご) 笛横 (ふえよこ) 木柏 (きはく) 裏藤 (うらとう)





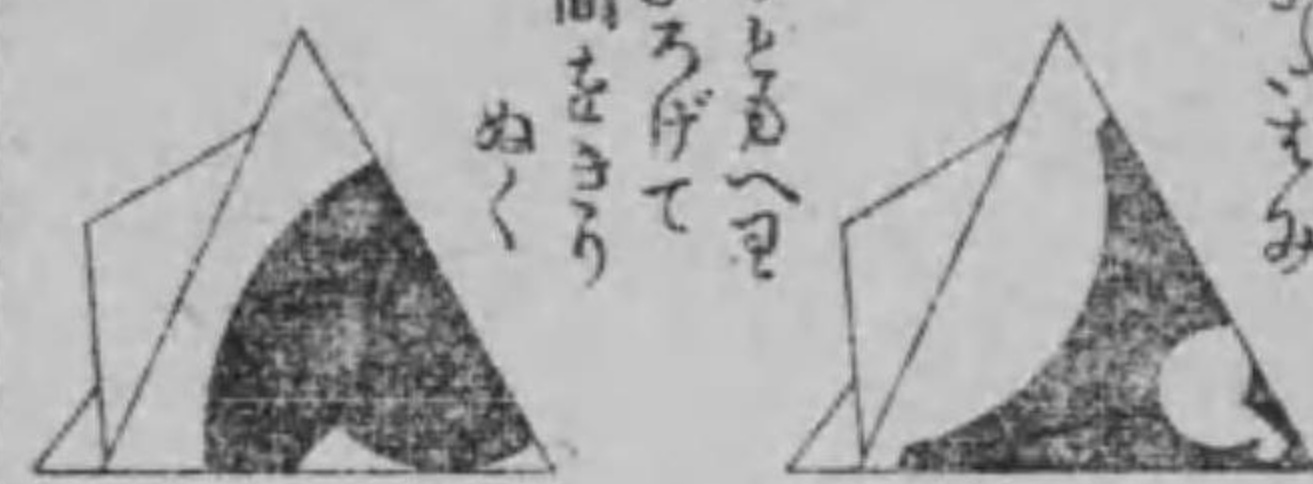
伊達紋幅紗縫模離形



浮夢橋	舟浮	葦早	橋姫	宮白	霧夕

まりもさみ

三ツともへり
ひろげて
間をさりぬく



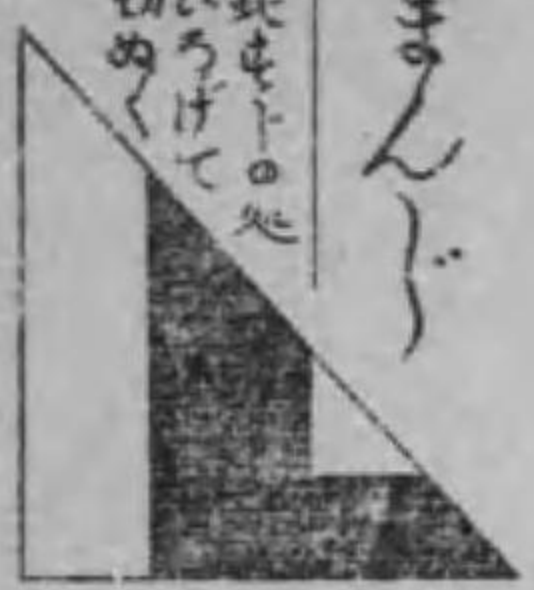
四ツ折

四ツ折

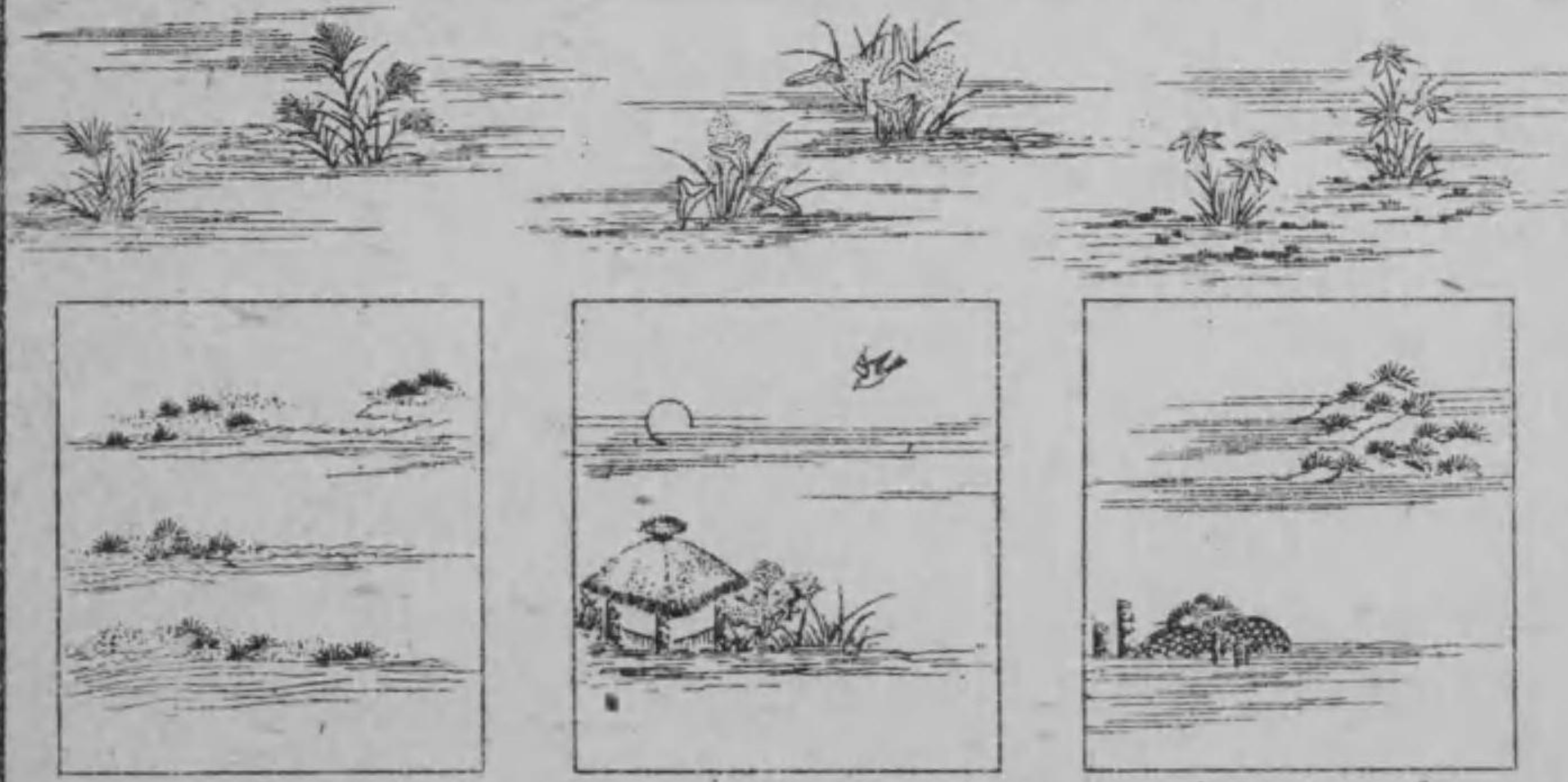


まんじり

北まとの処
切ひろげてぬく



鋪紙金漱模状の圖



九折

いざみ



くつこ



矢ぐるま



三ツ

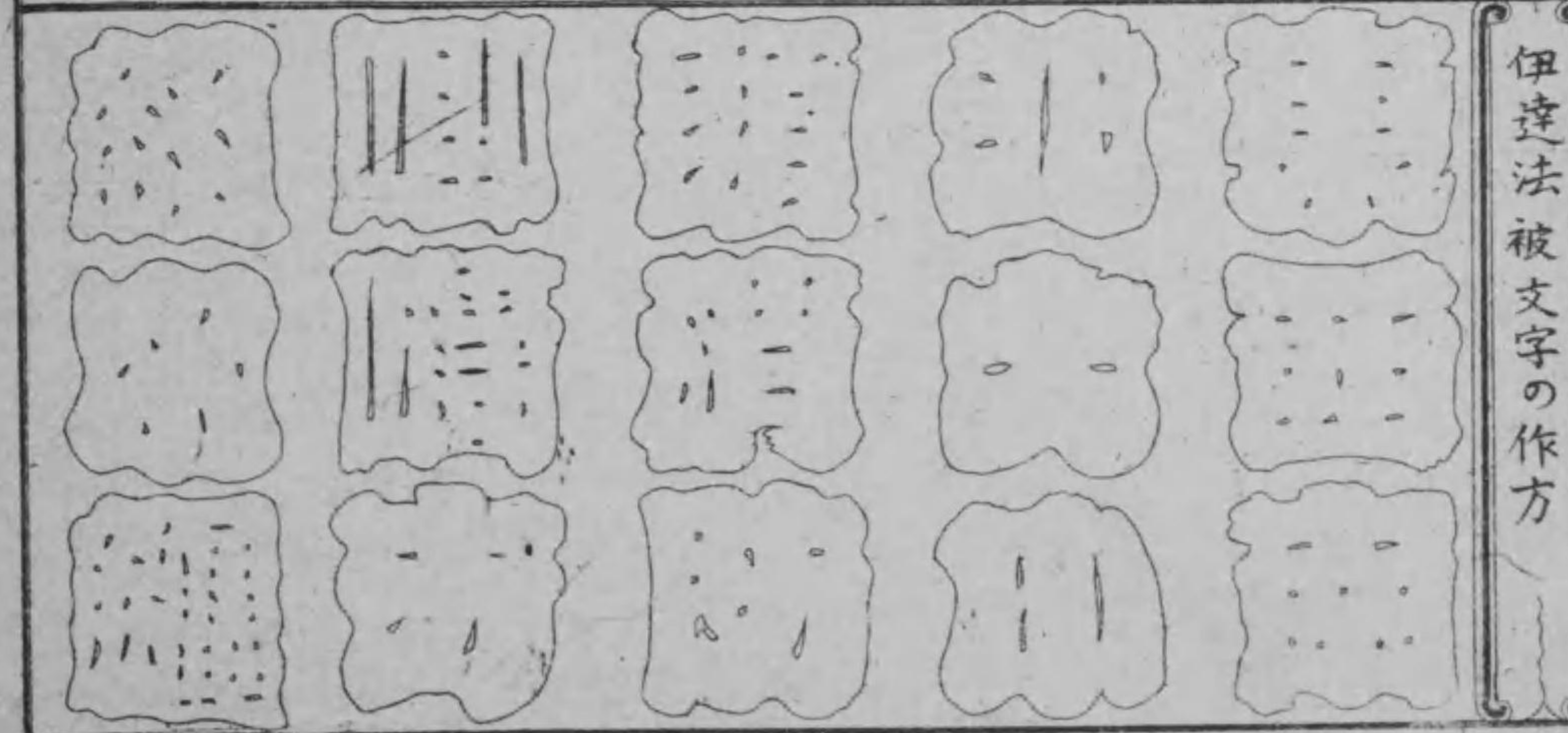
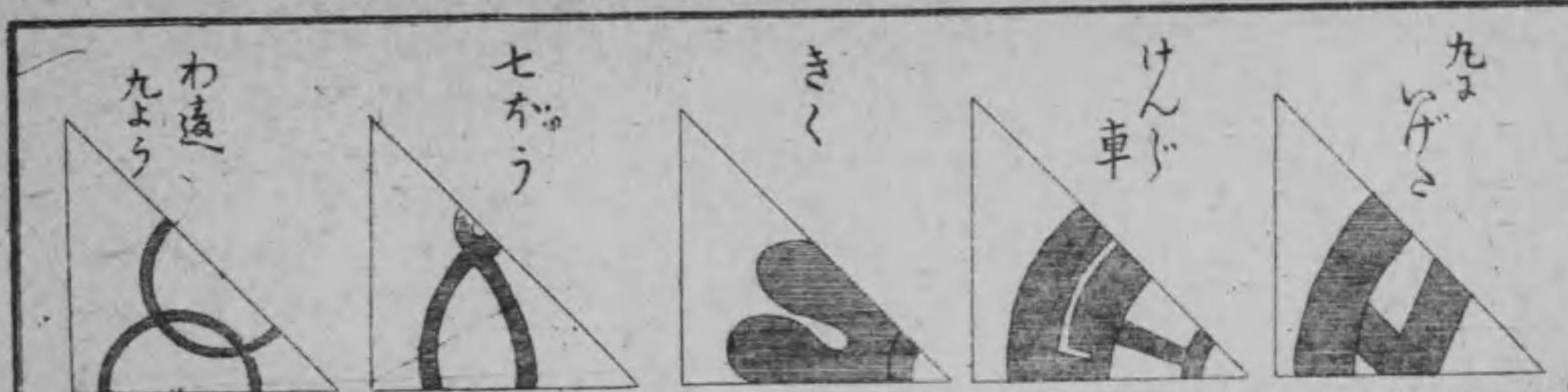
ます

四ツ折

角よくきぬき



伊達法被文字の作方



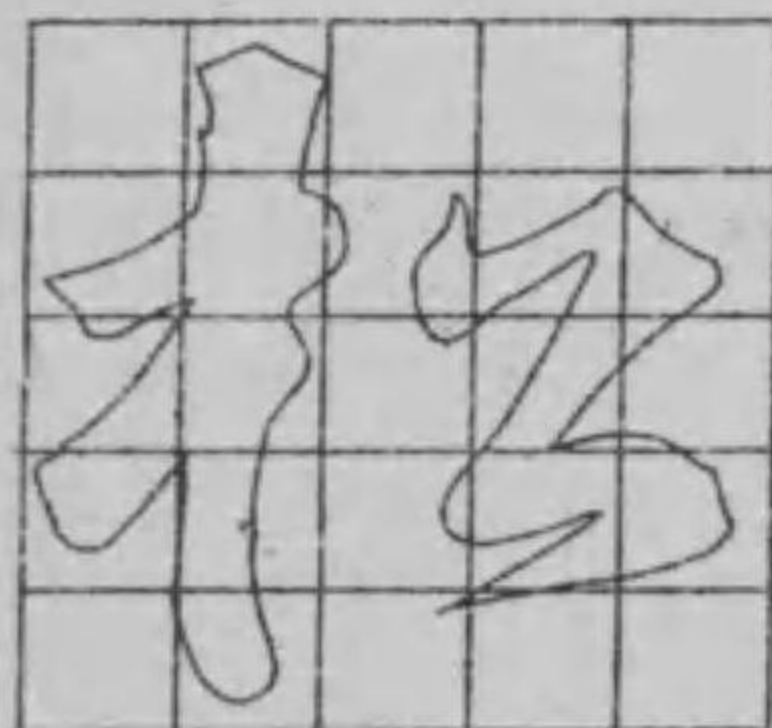
大小相意地刻の倍

凡紋所はかきしる繪圖ふても
文字もてもるよても大小おえ
うらうらとるるハむつ々きそのなり
を時ハけ法を用あべ大形を小
形もさるも小形を大形にするも
格好かしくも遠ハき出まるなり



たとへばおけ大一寸
の文字は是を二
尺の太字ようつせ
と能ハ先一寸の角を

幾箇まかとも其の目ハ刻付て其
目紋の通りを又二尺の方ハ刻付て



きて小形の文
字の格好を大
のくハ双沟よ
うつすべ即
上のと

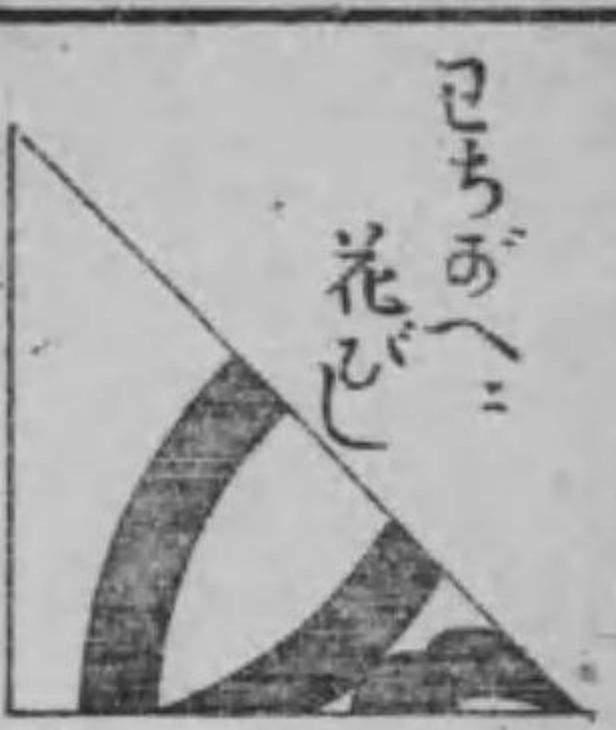
四ツ目

かせ車

すみ切角
きり付

かきへ九
やう

九やう



花びら



つちぐるま



丸くぎ

ぬき

五ツ折

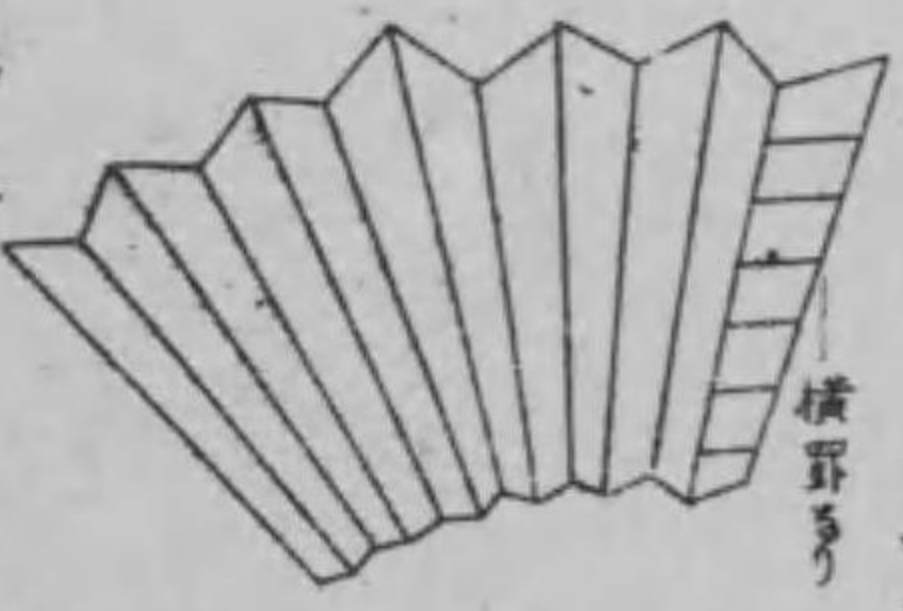


梅



あさこし
まてゆ

又扇子に出るものを角は並す
ときいそ扇子廿四るあは角の
方へ廿四の堅罫を引てあふきの
横の罫刻を最箇と定めて又
通りは角の方へ横罫を入れて

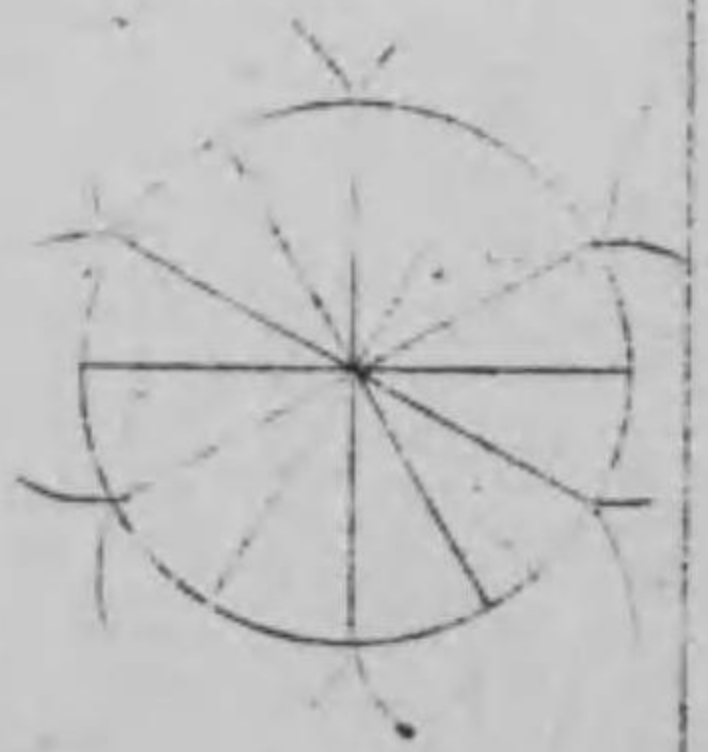


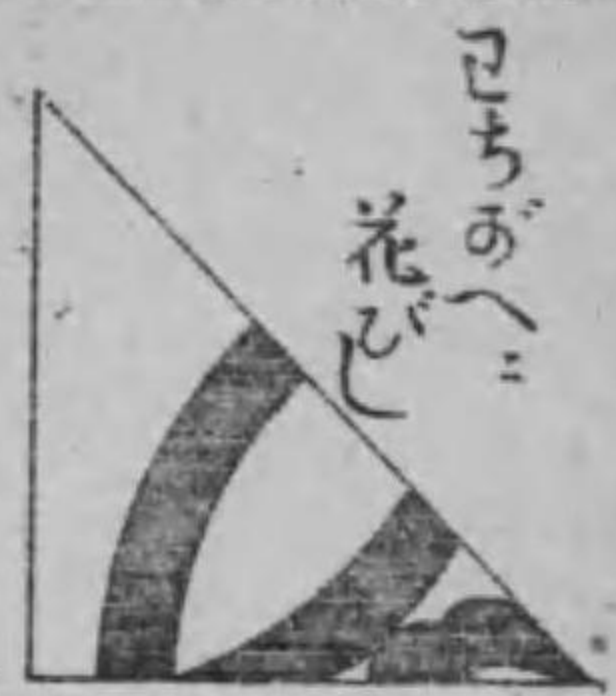
横罫多
但しあふきは一
向づうつ終る
べし地紙なと
一枚一面の罫刻
を用由べし

角を長くするも扇を角とするも
此法を用ひて自由に出るなり
本紙へ並し罫の引るものハ五板
破子紙一罫を引て上へ載すべし
たとへ本紙なくして出とも大ある
もの格好知まらねばものかへまづ小
形へ出てよく格好をのへて
此法を用ひて大なるを出べし



一ツ折
二ツ折
三ツ折
四ツ折
五ツ折
六ツ折
七ツ折
八ツ折
九ツ折
十ツ折
十一ツ折
十二ツ折
法
この法は...
扇の形は...
紙の厚は...
角の長さは...
罫の引方は...
破子の扱いは...
地紙の貼りは...
一枚一面の罫刻は...
扇子の作り方は...
扇子の種類は...
扇子の歴史は...
扇子の文化は...
扇子の芸術は...
扇子の科学は...
扇子の医学は...
扇子の法律は...
扇子の政治は...
扇子の経済は...
扇子の社会は...
扇子の教育は...
扇子の宗教は...
扇子の哲学は...
扇子の文学は...
扇子の歴史は...
扇子の文化は...
扇子の芸術は...
扇子の科学は...
扇子の医学は...
扇子の法律は...
扇子の政治は...
扇子の経済は...
扇子の社会は...
扇子の教育は...
扇子の宗教は...
扇子の哲学は...
扇子の文学は...





五ツ折



又扇子に出るものを角は並す

ときハそ扇子廿四るあつ角の方ハ廿四の堅野を引てねあふきの

横の野刻を最箇と定めて又そ

ありは角の方へ横野を入れて

一枚一面の野刻

を用い

角を長くもろも扇を角にするも

此法を用ひて自由に出るなり

本紙へ並し野の引るものハ

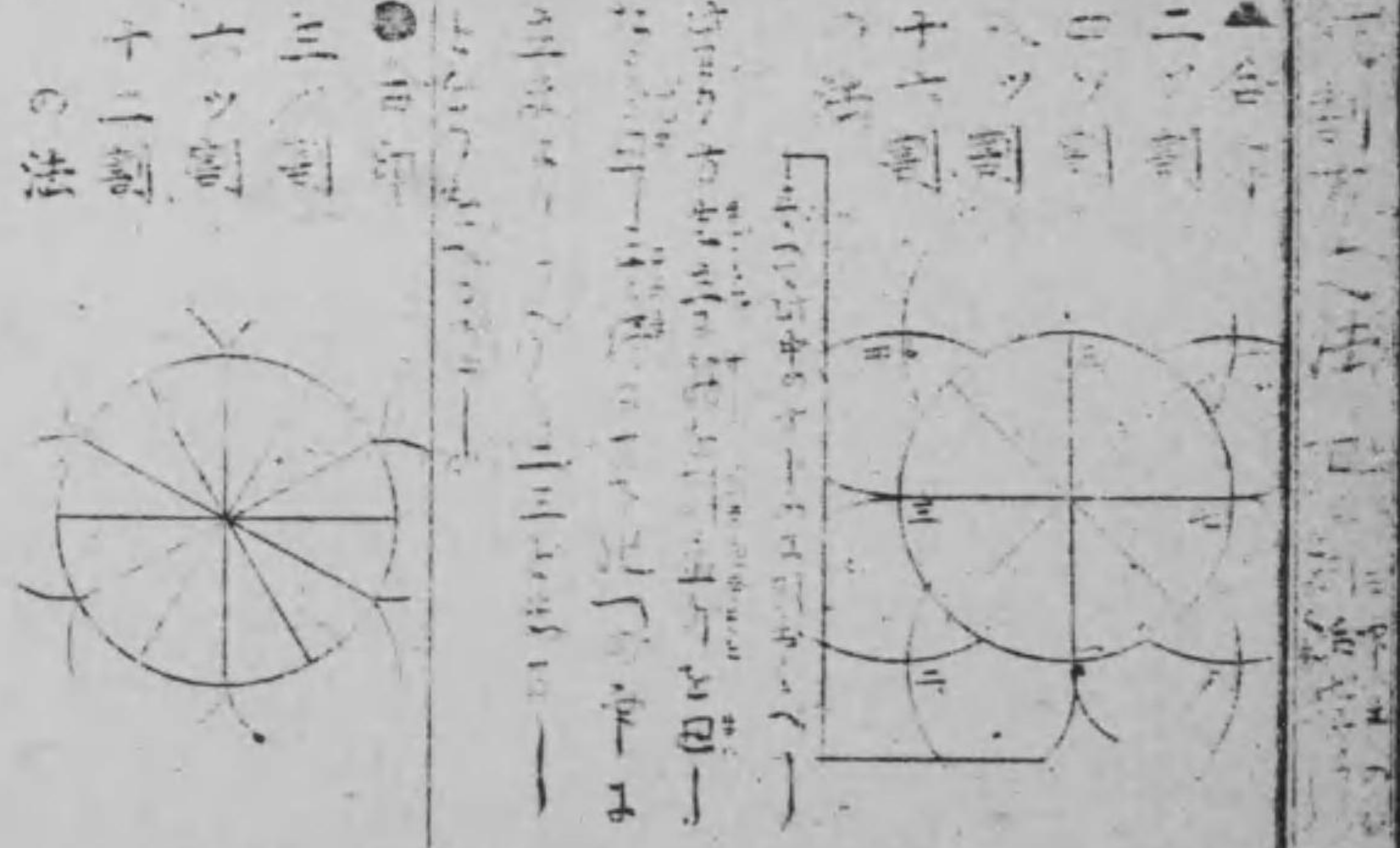
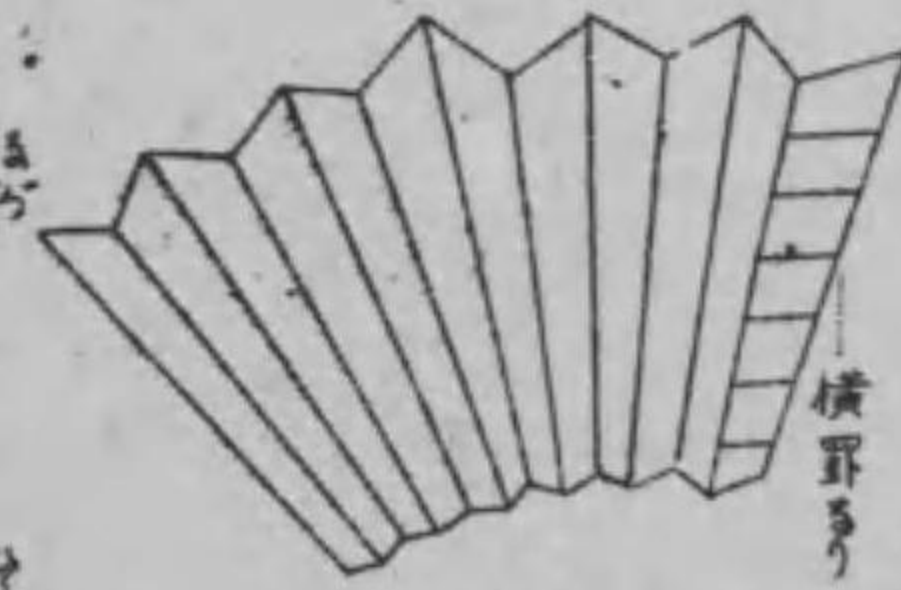
破子紙し野を引て上載すべし

たとへ本紙なくと出とも大ある

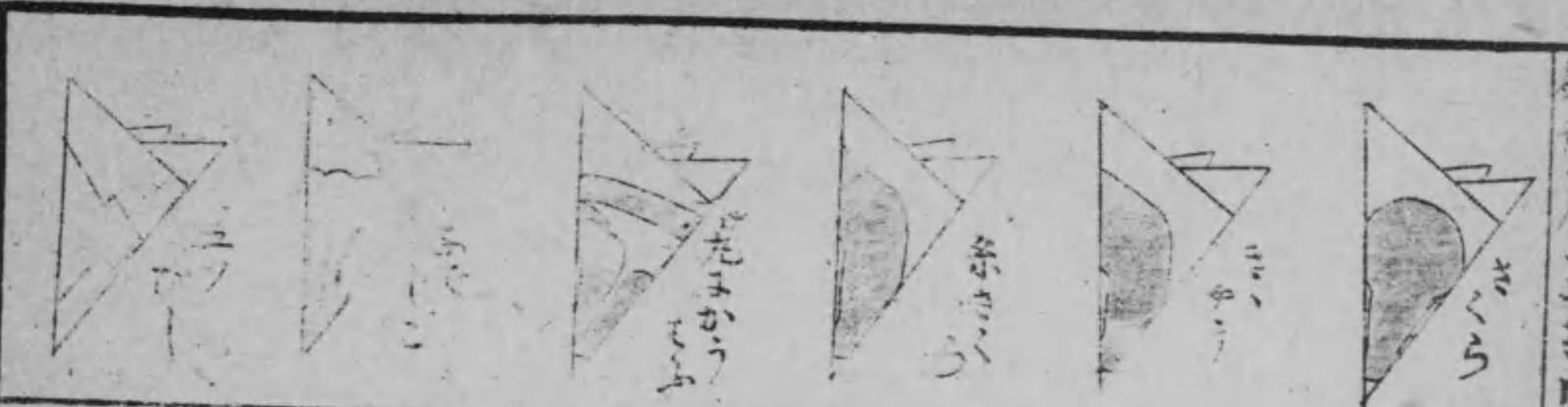
ものハ格好知まうたもの方へあつ

形し出てよく格好をそのへして

此法を用ひて大なるをよべし



又扇子に出るものを角は並す
ときハそ扇子廿四るあつ角の方ハ廿四の堅野を引てねあふきの
横の野刻を最箇と定めて又そ
ありは角の方へ横野を入れて
一枚一面の野刻
を用い
角を長くもろも扇を角にするも
此法を用ひて自由に出るなり
本紙へ並し野の引るものハ
破子紙し野を引て上載すべし
たとへ本紙なくと出とも大ある
ものハ格好知まうたもの方へあつ
形し出てよく格好をそのへして
此法を用ひて大なるをよべし

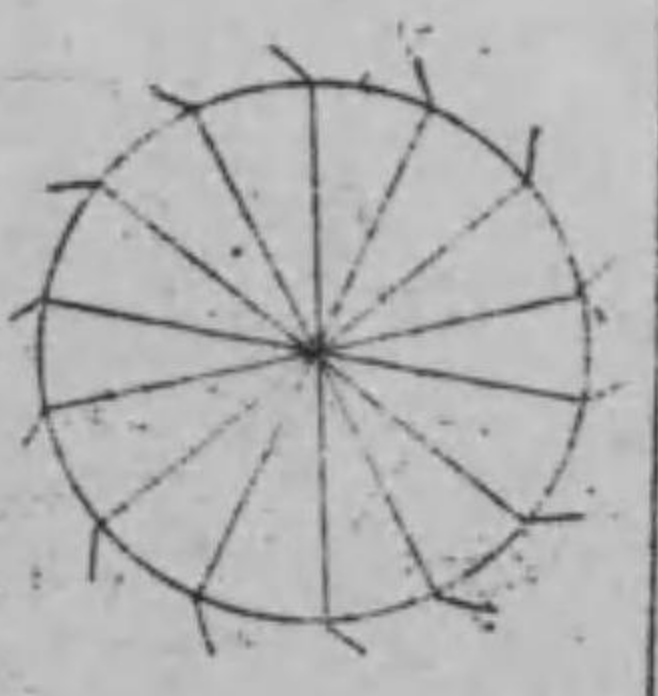


合印
五ツ割
十ツ割
の法



右割方十ツ割るハ響ハ一寸の丸をま
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り

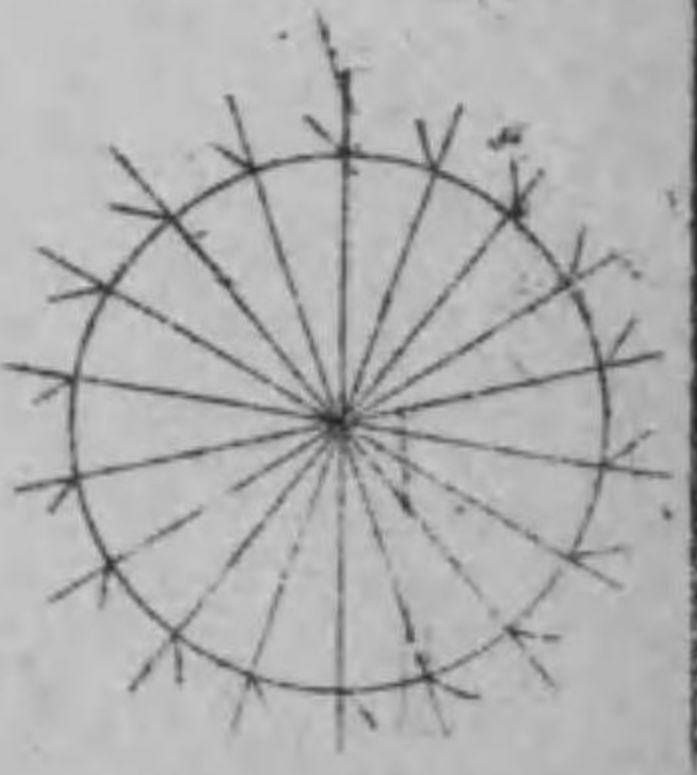
合印
七ツ割
十四割
の法



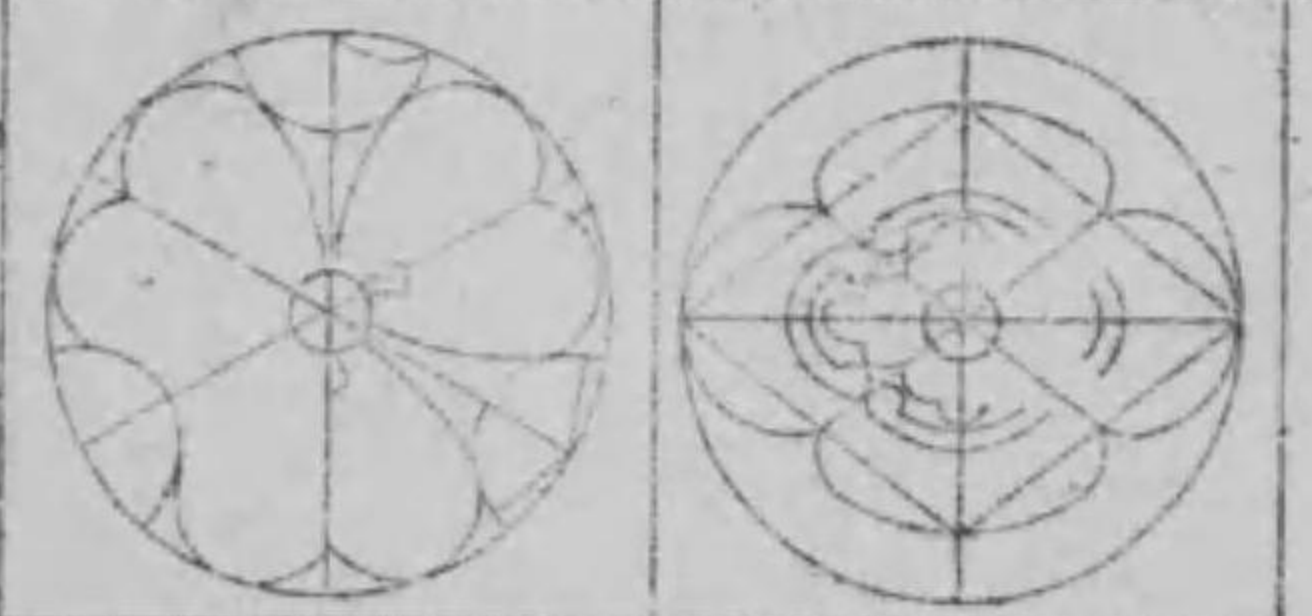
右割方十ツ割るハ響ハ一寸の丸をま
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り



合印
九ツ割
十八割
の法

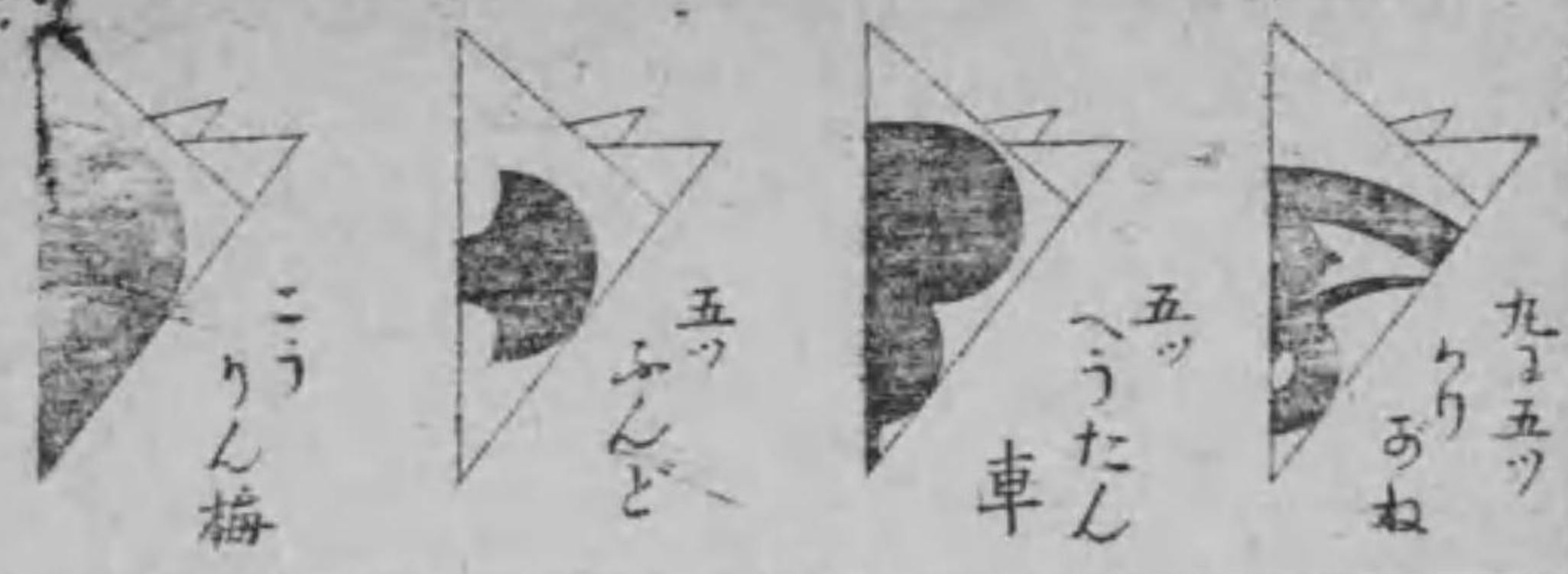


右割方十ツ割るハ響ハ一寸の丸をま
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り



右割方十ツ割るハ響ハ一寸の丸をま
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り
ハ九二の丸のふりてはこぶ積り

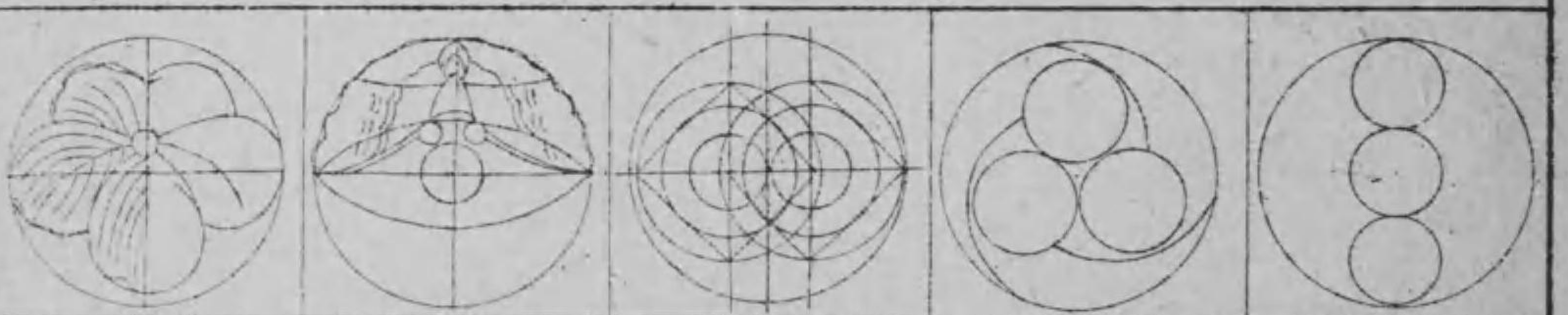
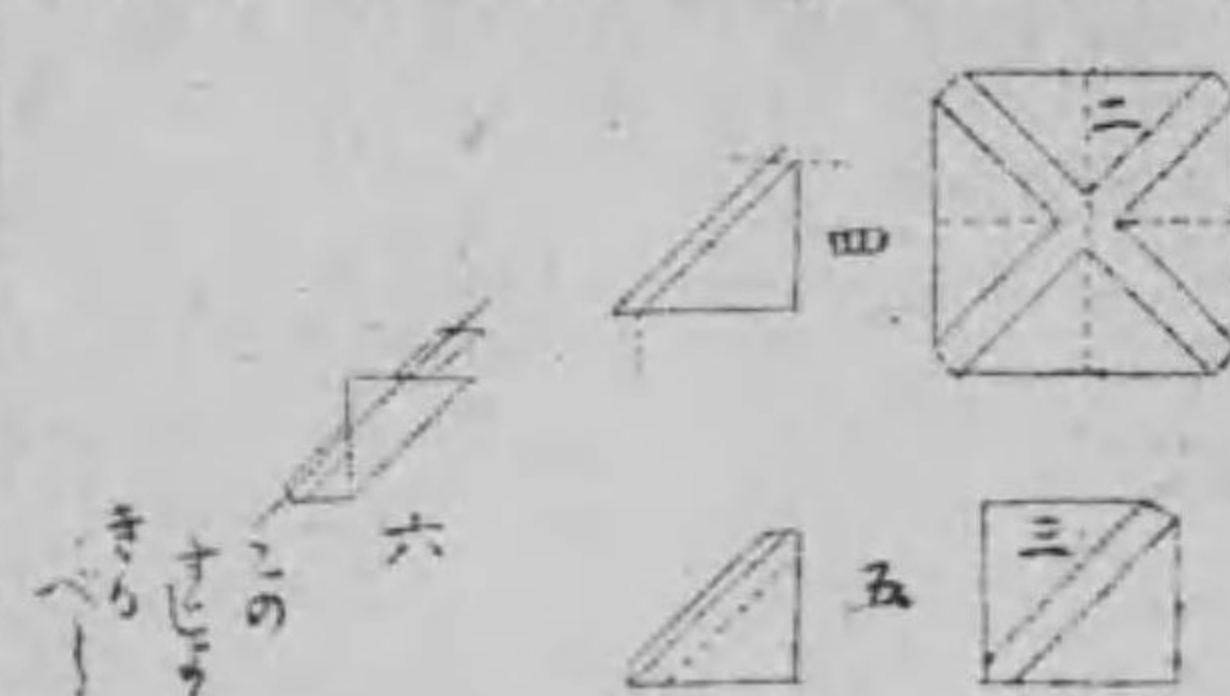
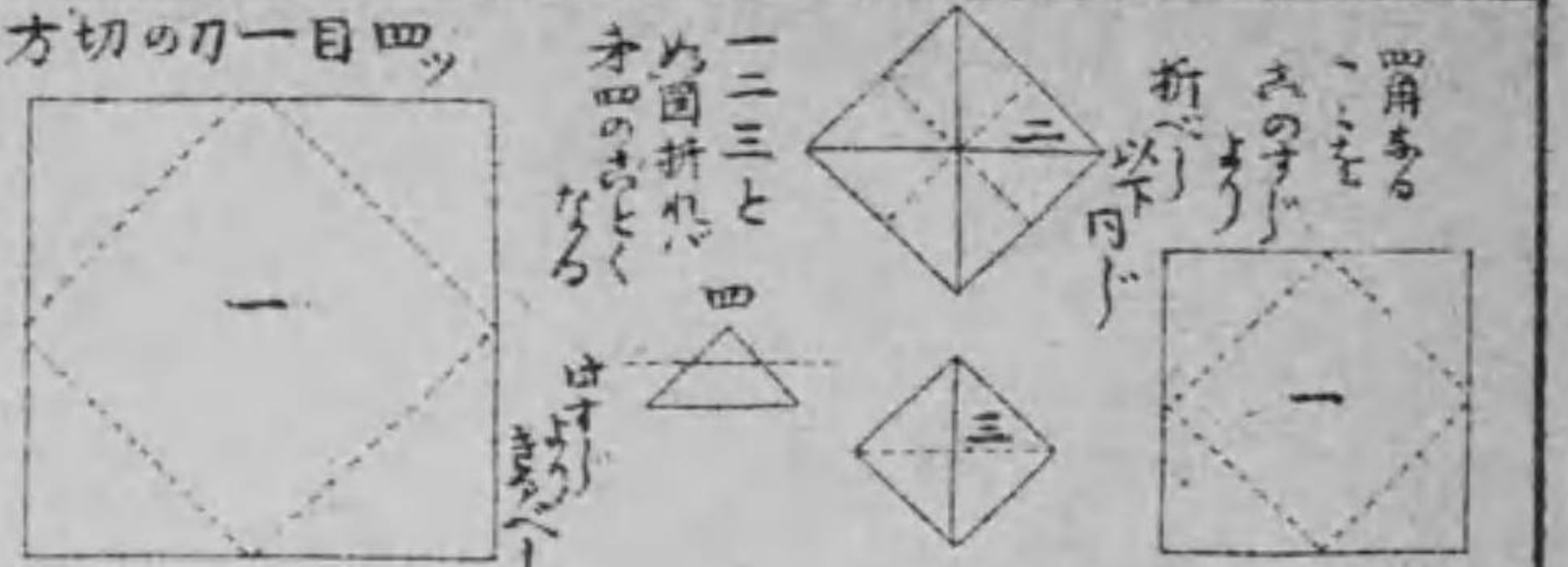
古代
五ツ割
五ツ割
五ツ割
五ツ割
五ツ割
五ツ割



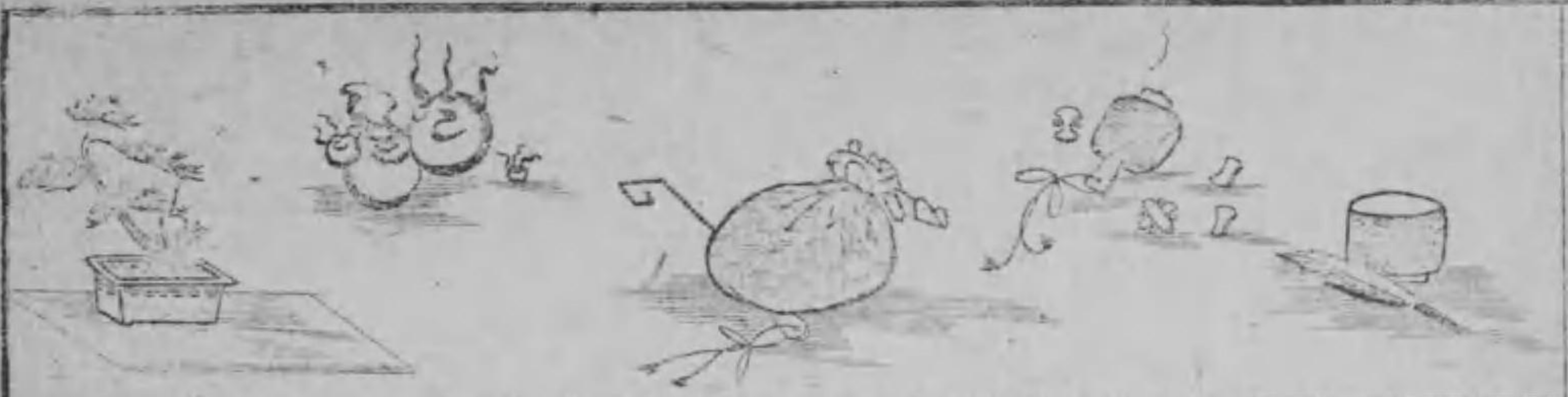
紋切一刀之奇法
此法は只一べんまで
紋を切る法よりして
左に固まる如く折る
に注意せよ
井筒一刀の切方



割早ちを免む	りまは筒井	割の丹牡用行	割の莖ちた	割のこむけ
是を早取りなり はさおりに を修して や付さのち一二三 より通りをうく	先丸をまかり 十を一の てはるべし 井づれを まんまんにひて	右図のより五 取りまて 取り合まかく	四方へを おのく 四 是も一 はうつま	行も 四 なる筋 六 ね又合

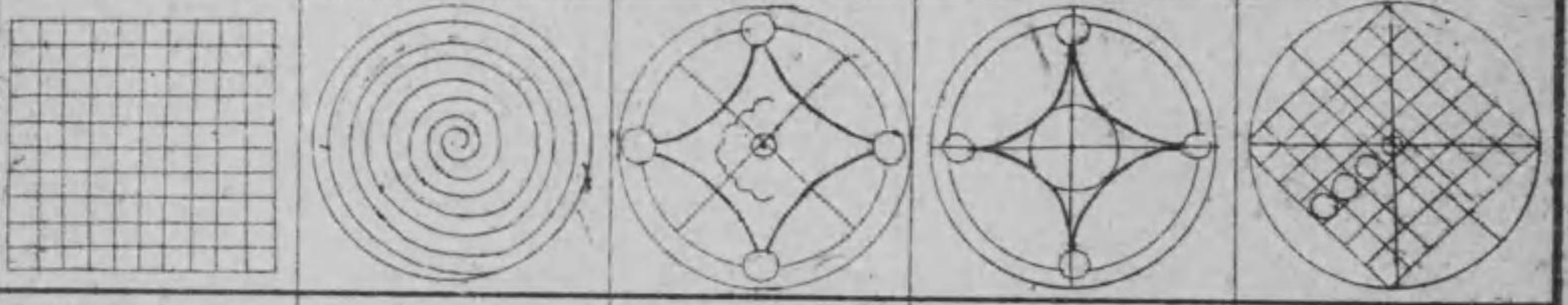


割のめやえ	割此巴ツ三	割の行秘さか	割の懐ひかむ	割此た法
中此丸は の丸の三 りつを 法とま	三ツ 図の 巴 か	四 上 合 紋 た	四 合 合 合 合	四 合 合 合 合



割のちふり下 割のこか松 割の裏いが三 割の柄ふうむ

そのこの字分を以て
中の口をまじり
十をまじりて中の
分回してなるべし
をてスツとやら
これトカんべし
よりくり三ツ引と
おるト中北不
スツとてなるべし
丸のハア一をふとさ
えて二層をとり
上下のふを回しを立
てまんがりの通り
よりくりせえて先
を引かへるべし
ハツリりしてその
内分の通り上下の
回しをまじりて三
枚まをまねかを回
したる分回しを
ちつて出へし
よりくりさ右不
かふりりく



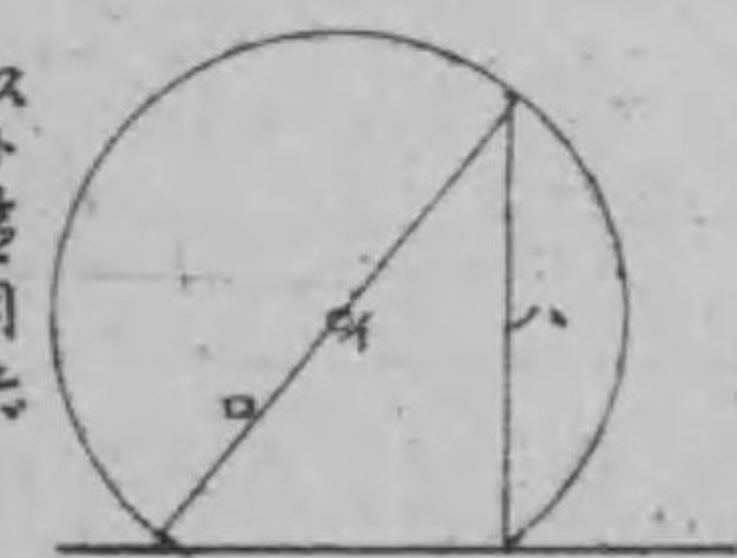
りまのくか りわのづう りま乃室七星 割の室七つひい 法目加割七

各の通りハツ割を
うけの角成中
十のんじへ尺合
如此七ツ割を木
まじり合とま
ハツリりしてその
通り上下ハツリ
を以てやまを付且
四方へ尺合を回し
又か回しなる多
めは上下ハツつ
こまのハツリり
て圓のとくを
かきか回しなる
回しを中を去
り丸まじりり
丸を回しハツ割
心中のまより三
のうをまじりて
四のまねかのま
をなしたの引け
るすしを合して
まをまじりす
如はとん野を引
てよりくりと字
のときをせむく
るべし又香の
のまじりり
ふしとせり

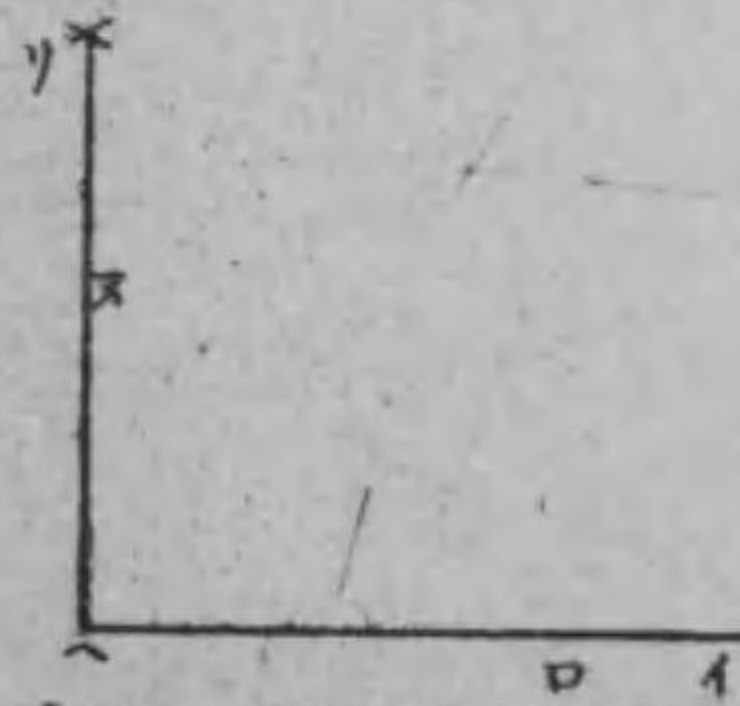
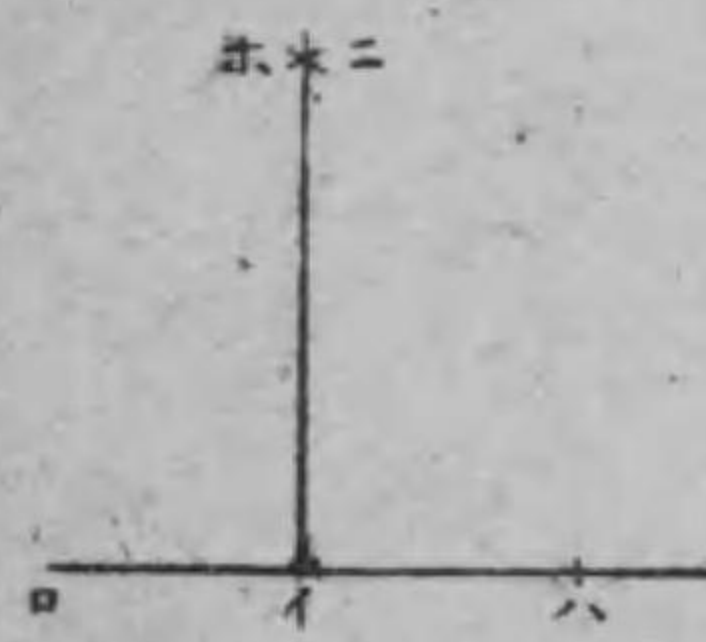
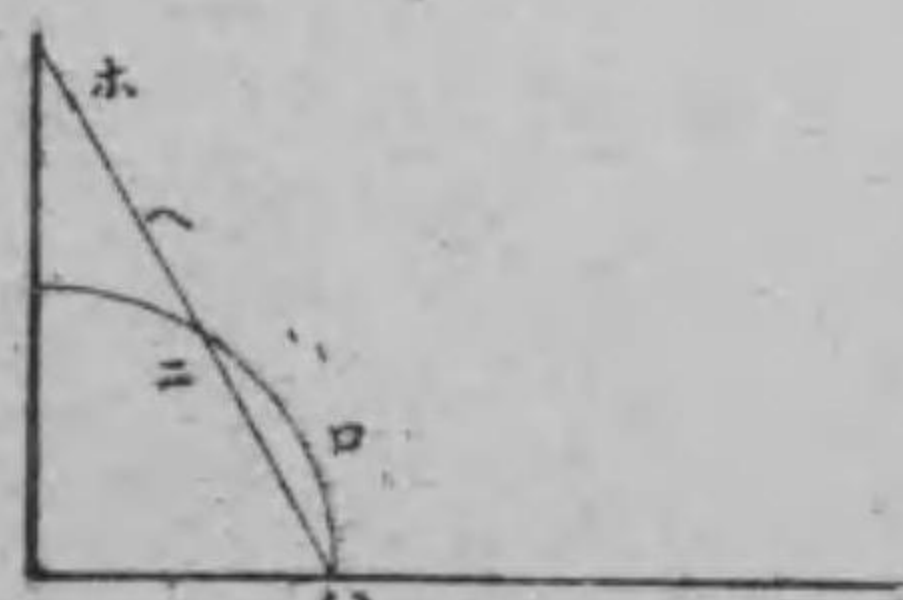
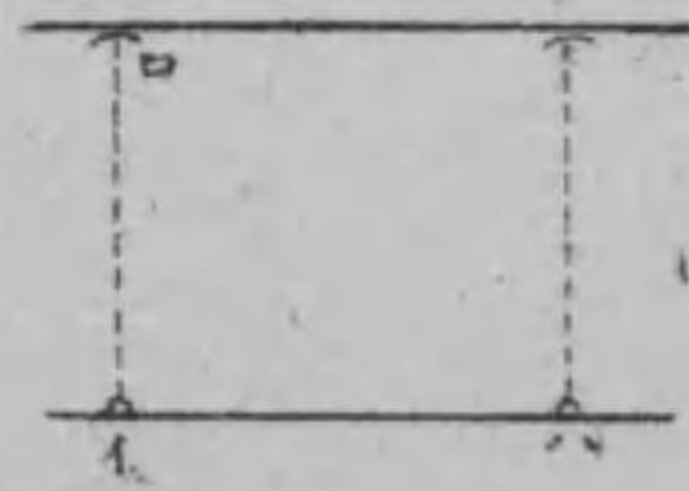


板の如き屈曲する物は正角を作る法

此法ハ総てイロハの順ヨリ入まじしをたて行く時ハ必ず正角の出来るものあり

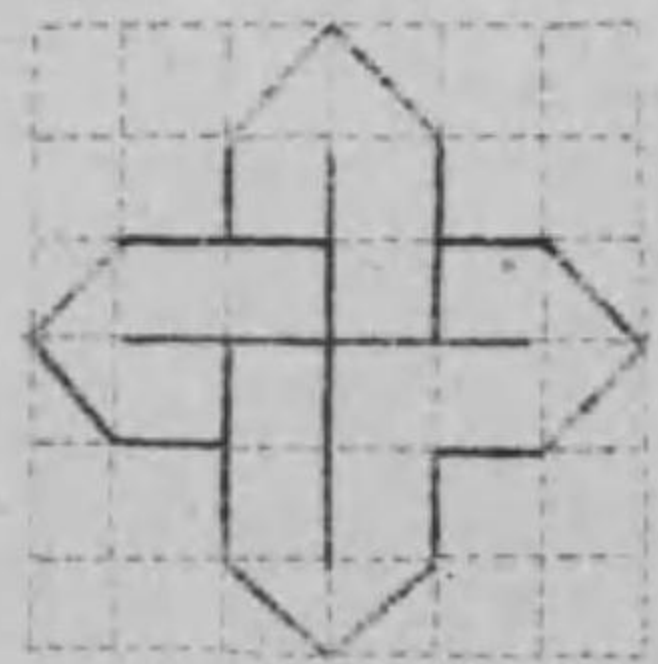
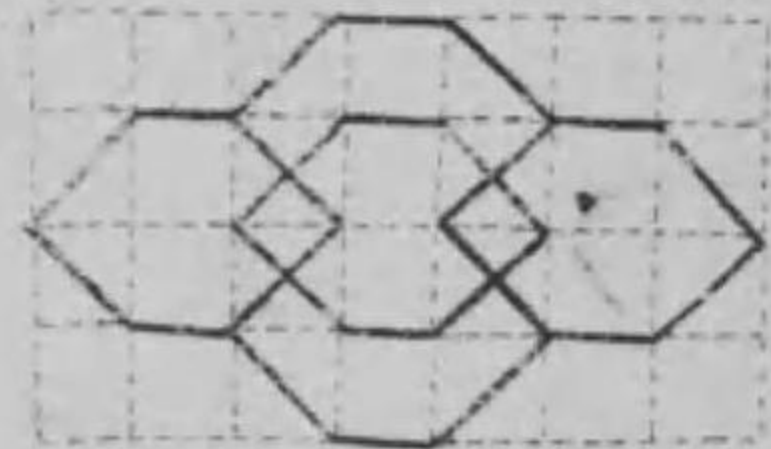
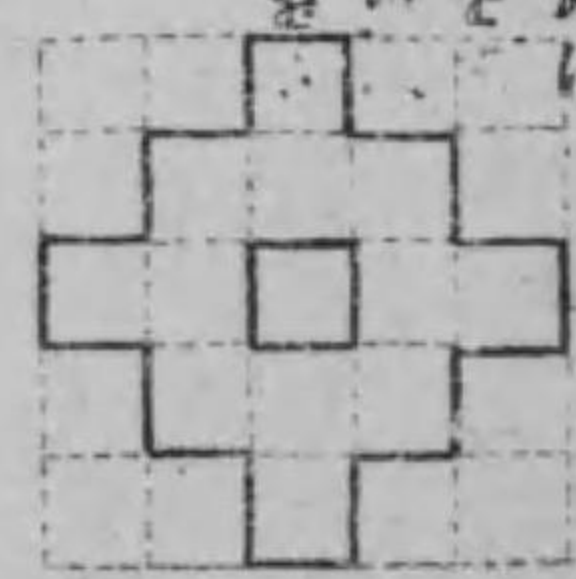


以下皆同法あり

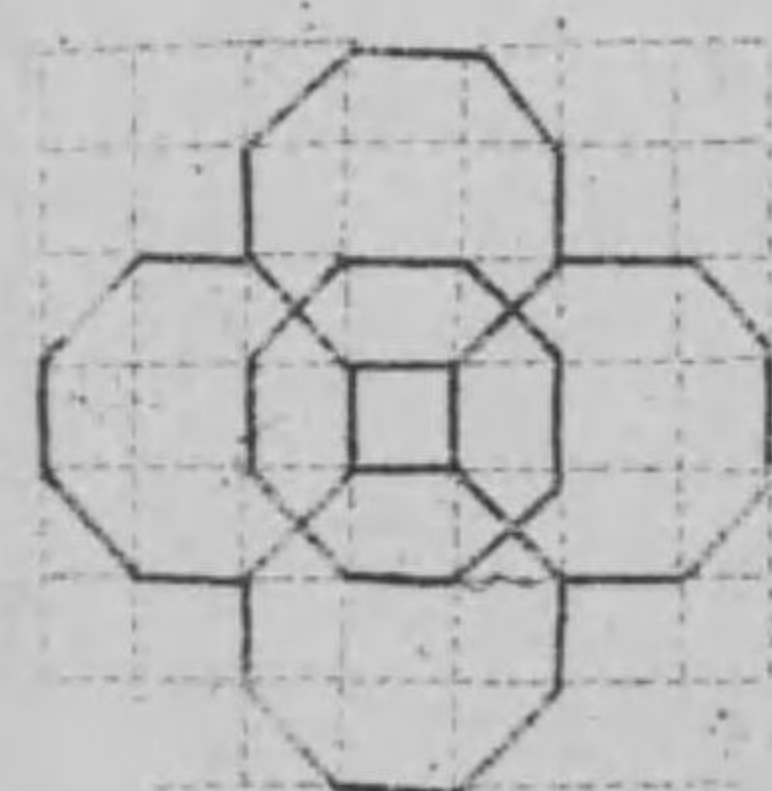


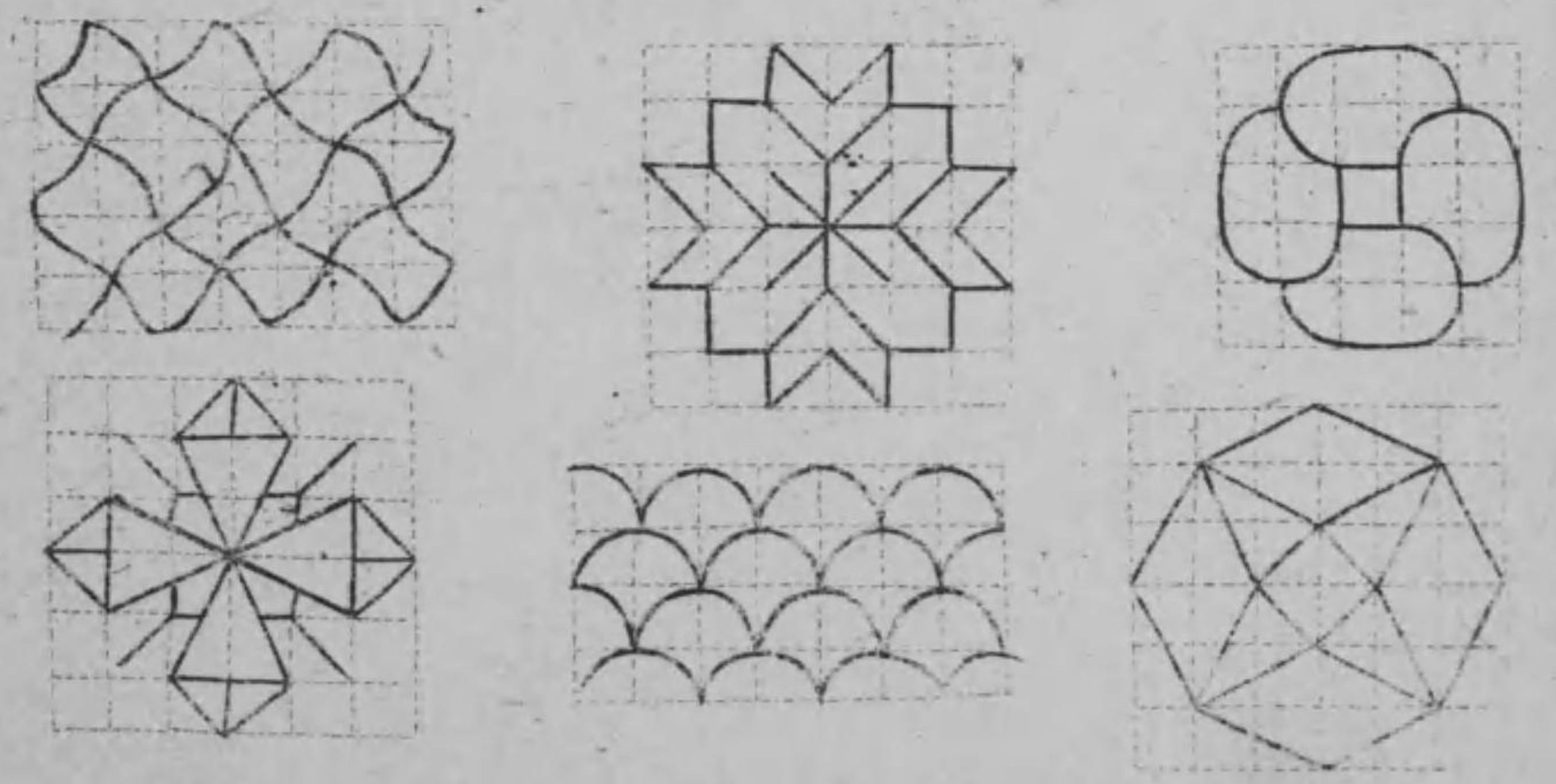
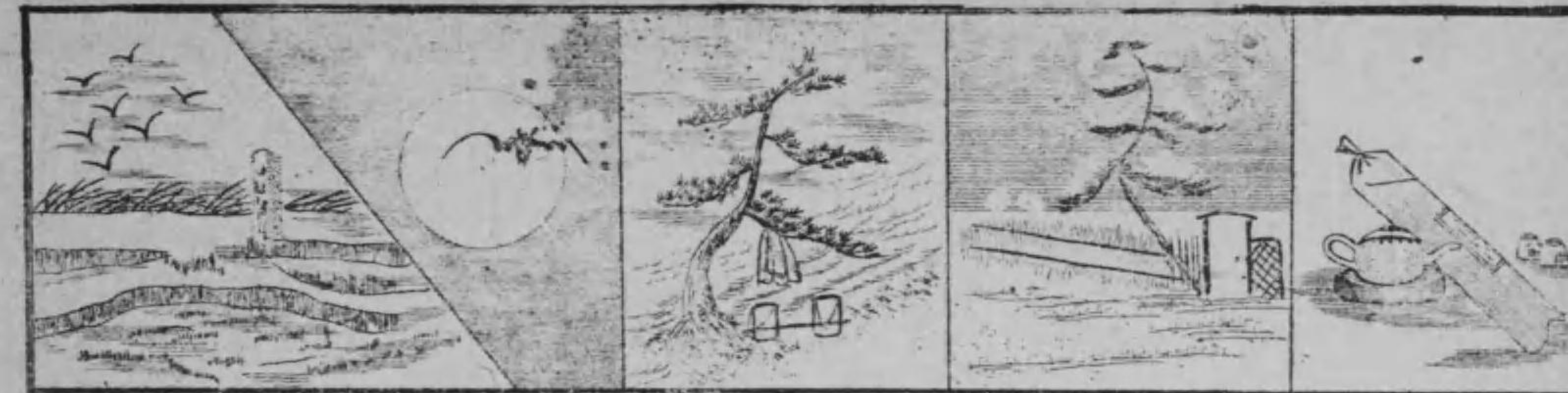
花容差布雛模

少子装束或ハ母氏さんの類ニ糸差を方々ニ施して其模形を削けて平上をさし徳へ



以下同





紋所化清るんほの亭

- 一 九ハ あるやるや 低くくもちう 太く中目ウ 不う目ういとら
- 一 痛ハ うげと
- 一 二重痛ヒ ひると
- 一 一ウげと 一文字と
- 一 ひとつ引と 二文字と
- 一 ふとつ引と 三文字と
- 一 三つ引と 九文字と
- 一 くつ引と めうげと
- 一 杏葉と 四ツ割菱と
- 一 井げと 井づと
- 一 かしをみハ 根あるやまーや
- 一 梅様花のねハ いとへつ
- 一 桐ハ たうんく 又うすとふ





一入山形と かき取山形と

一角ハ ひしうすまきり
すまきりすまきり

一色ハ いろまじ

一寸法ハ くのちう

そへて紋の寸法は日さりの長さ
方を平と見たとへい裏をどハ横
まて寸法を定むる数なり是れ
袖方のんは遠ひして堅伐本
と守るとたい大なる遠ふるより
是れまきり紋の似よりなる
数多かり能く念を入るべし
是れまきりあるとたいお月くい職
方の急忽と成りのるれば丸角
袖へる人又紋帳を足せてたづね
着のるにやう町嚙ま傳えへ

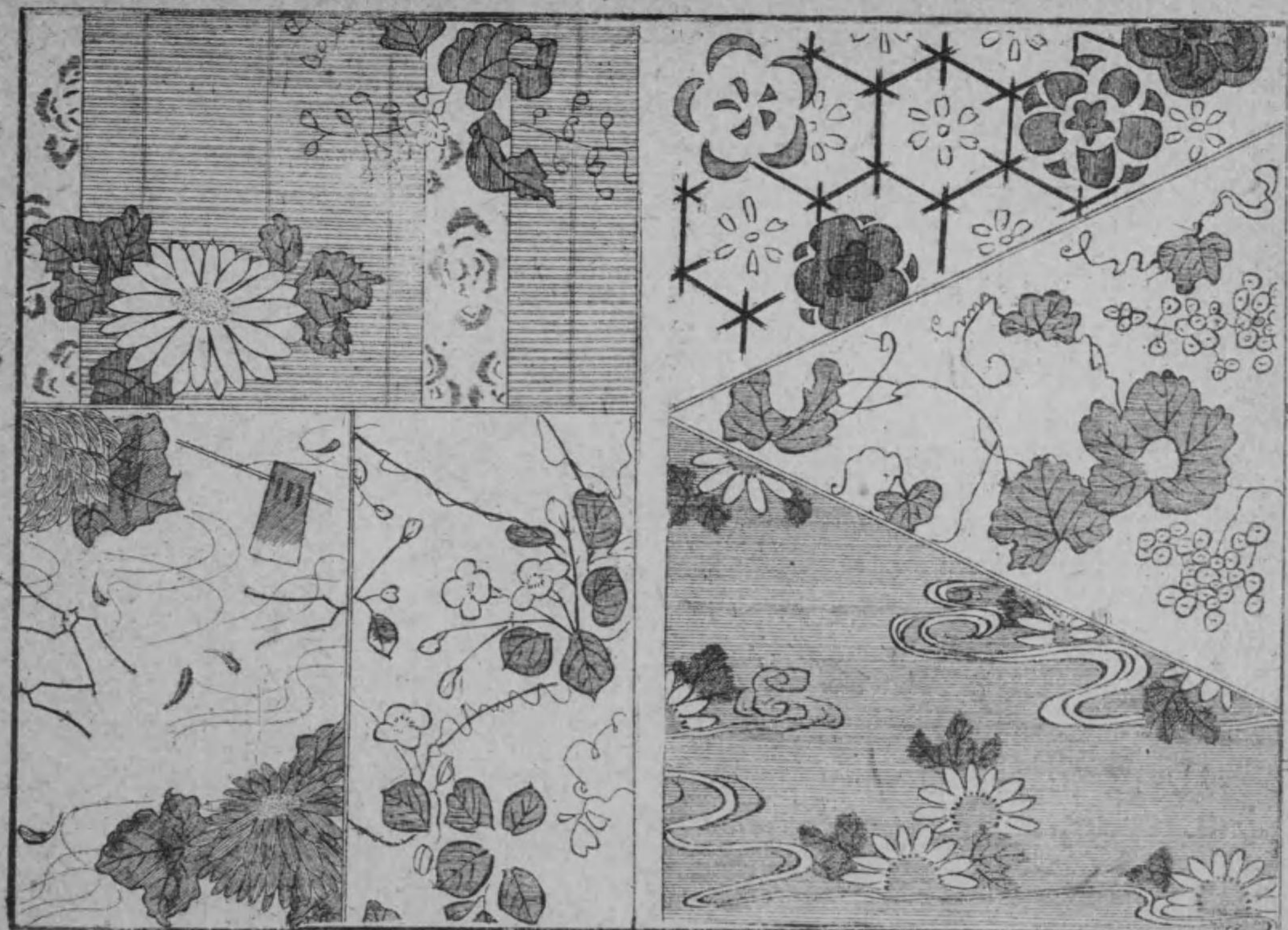


古紙
黄益紋帳大全



九十四

蜀
升
乃
上
六
巾
八



秋草



木葵
キビタキ



桔梗
アサヒ
菜鳩

雀ニ落葉



秋冬雀



八重櫻
都鳥



時計草
ヒタキ



野薔薇
小陵



浪ニ鶴



薔薇ニ
エナカ



ウソニ
連喬

百合ニ
黒鴉



黄蜀葵ニ
黄雀



花菖蒲ニ
鶺鴒





車前草ニ

脊黒セキレイ



柘榴ニ
大ルリ



榊ニ
アリスイ

剪秋羅ニ錦帯鳥



河骨
水鶏



燕子花ニ鶴





薊ニ駒鳥



夕ノ花ニ河原ヒハ



杜鵑ニ月



魚狗ニ蓼



楊梅ニ目白



紺菊ニ想思鳥



八重山吹文鳥



秦吉子
白藤



告天子
蒲公英



紅雀
ニシヤクナゲ



棕櫚
ニ燕



金線花
紅金翅雀



ヨシゴイニ露草



澤瀉



葵ニ百舌



棕鳥ニ紅葉



萩ニ鶉



朝良花

千鳥ニ浪



雁



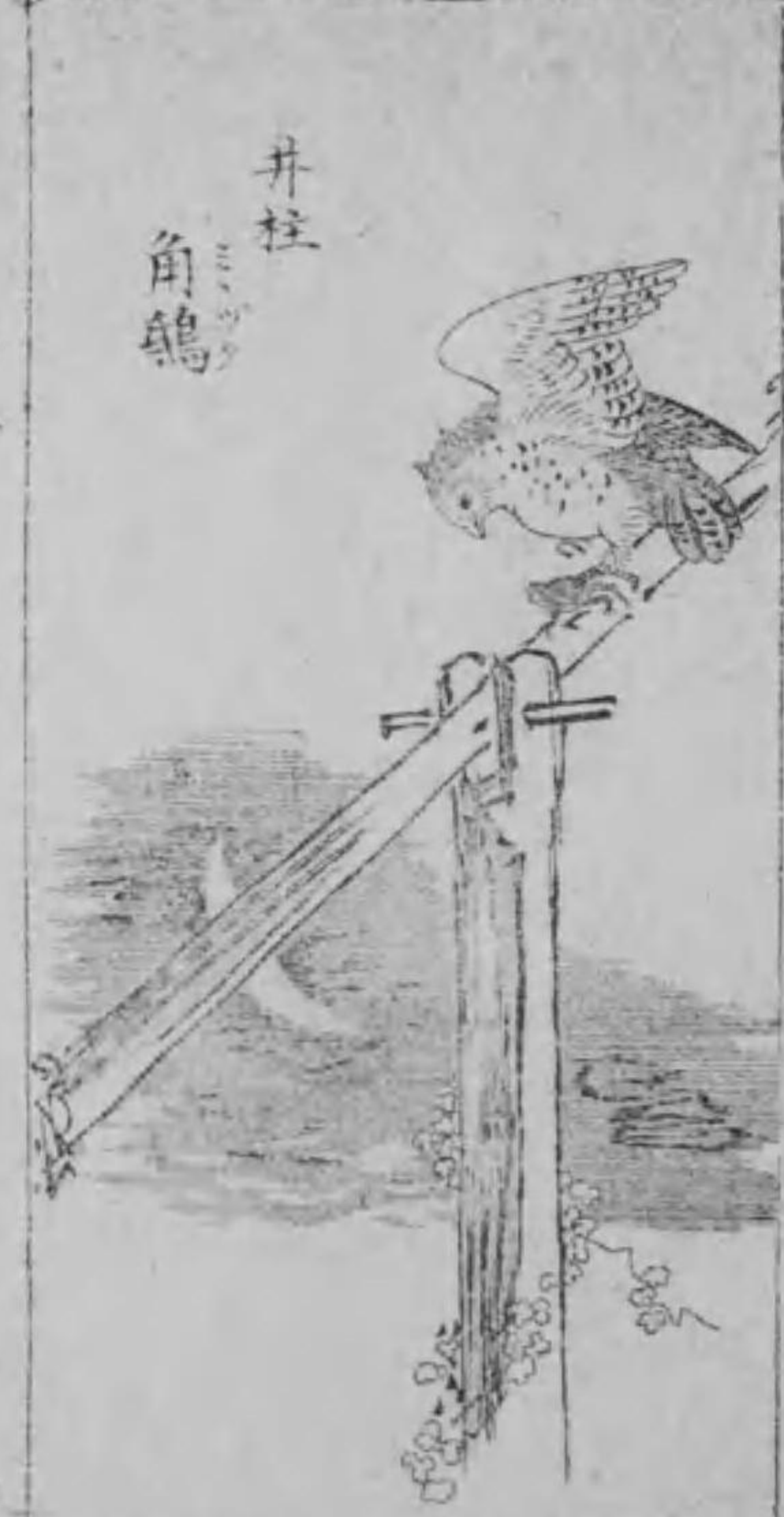
柿ニ鳥



葛ニ四十雀



井柱
角鴟



槿ニヒタキ





青鳩ニ紅葉
アホバトニモミヂ



寒菊ニ
カンキクニ



黄槿ニ赤鴉
オホムクニアカジ



津和路
ツワキ ミソサキ



錦木ニ鶺鴒
ニギキニキシキ



冬牡丹ニ
フエハ

細形 天正 糸巾

サ子カヅラニ
深山頼白



枇杷ノ花ニ
アオジ

茶山花
鷯鷯



鳥益紋帳大全終

大正七年九月二十日 印刷
同 年十月一日 発行

版權所

著作者 甲斐山久三郎

印刷者

中村淺吉

京都市上京区富小路通
三條北福長町八番戸

大賣所

大坂安堂寺町富田中太右衛門

東京市神田區美土町富田文陽堂

東京市淺草區柳屋岡村盛花堂

波引紋帳

全壹冊

67
3
374

新選定紋鏡

全壹冊

終

